



総合調査設計では、大阪を中心としたまちの魅力を発見、発掘することを目的として「大阪探検隊」なる活動を行っています。

今回ご紹介する内容は海外です。大阪探検隊も国際化に突入？大阪とは関係ないではないか？など細かな部分は置ましてタヒチをご紹介致します。

## タヒチって？



タヒチ...。名前は知っているけど、実際どこにある？正式な名称は？と問われると「どうだろう」と思われる方が多いのではないのでしょうか。筆者も出発前の空港であわてて買った「地球の歩き方」を見て知ったぐらいですから。

正式名称はフランス領・ポリネシアということです。位置は南太平洋のほぼ中央で、約 120 の島が広大な海域に点在しており、5つの諸島[ソシエテ・ツアモツ・マルケサス・ガンビエ・オーストラル]で構成されているそうです。

首都パペーテのあるタヒチ島は、南緯 17 度、西経 151 度に位置し日本とは 9,440 km 離れているようで、時差は日本より 19 時間遅れ。日本からの飛行時間は 11 時間ほどです。





タヒチの玄関口  
ファアア国際空港のファサード

回遊ルート～まずはボラボラ島へ～最終日はタヒチ本島へ



関西空港からタヒチ本島にあるファアア国際空港までは直行便となります。ファアア空港に到着し、すぐに国内線でボラボラ島へ向かいました。  
(上の写真はファアアの誘導サイン)



ボラボラ島はタヒチ島から北西約240kmに位置する島々です。様々な色合いに輝くラグーンの真中に浮かぶボラボラ本島は、いくつかのモツと呼ばれる無人の小島に取り囲まれます。



空港からホテルまで15分の船旅



## ル・メリディアン・ボラボラ（ホテル）



ボラボラ島5泊の内、3泊はモツにあるル・メリディアン・ボラボラの水上演習所に泊まりました。

この演習所の特徴は、リビング中央の床2畳分がガラスになっていることです。昼間はほとんど魚影がありませんでしたが、夜は海面にスポットライトが当てられ小魚が寄ってきます。夜ポケッとみているとサメらしい姿も確認できました。ちなみにタヒチのサメは人には危害を与えないそうです。

バルコニーから海面にステップがついており、すぐに海につかる（私はあまり泳げないので、つかるといふ表現をします...）ことができます。

演習所への設備類は、デッキ下に配線が施されています。トイレの排水はタンクのようなのですが、シャワーはそのまま海へ垂れ流してしているのでは？といひますのも、ガラスの床から見える海が泡だらけ。大丈夫？...

夜、タヒチショーが砂浜で始まり、タヒチアンダンスやファイヤーダンスが始まりました。くるくるとファイヤー棒を回しているのですが、ポトポト落とす...。多分、ホテルの従業員が頑張っているんでしょうか。



## アクティビティ（アクアサファリ）



旅行先でのオプション、イベント参加をアクティビティというらしいです。アクティビティはウン十万する釣りから千円単位のものまで幅広く揃います。

私は、6000 円程度のアクアサファリにチャレンジしました。これはタンクを付けずにおもりのついたヘルメットをかぶり、水着のまま海底の世界を楽しむものです。

はじめ歩くのに困惑しましたが、まるで月面を散歩しているような気になります。魚もウヨウヨ泳いでおり、パンの入った袋を取り出すと魚軍団に囲まれます。ある意味怖い…。

4人で潜るのですが、私たちはイタリアの老夫婦と一緒に潜りました。ここでハプニング！数十分の海底散歩を楽しんでいると、2mほど前でイタリアお婆さんが珊瑚につまづき転けそうになっている！ここは海底、思うように体が動かない！お爺さんもスローリーに駆け寄ってくる！その瞬間、お婆さんのヘルメットが外れ！「わあっ！」と思った瞬間、お婆さんは水着が外れながらも懸命に水上へ！

インストラクターの人が目を離したすきの出来事でした。時間切れなのか、ハプニングがあったからなのか、私たちも船上にあがることになりました。

船上では、あとから追いかけたお爺さんがお婆さんに向かい「x@~!!!」と（多分「気をつけるよお前!!!」でしょう）言ってしまったが、お婆さんは「まあまあ」といったあっけらかんとした態度。ああよかった…。お婆さん、ベルサーチのサングラスが光っていましたよ。



## ポリネシアスタイルの結婚式

無料の脚こぎボートで遊んでいると、浜辺では何やら人だかりやヤシの葉を固めたものが見えます。なんだろうな？と思い浜辺へ戻ると、ポリネシアスタイルで結婚式が行われるとのことでした。ポリ





ネシアスタイルの結婚式は、原則として夕暮れ時に、波静かなラグーンに面したビーチで行われるそうです。

白いパレオに包まれた花嫁さんはおみこしのようなものに乗陸路から挙式場に到着。一方、新郎はタヒチアンの勇者に伴われてラグーンよりカヌーで花嫁の待つ式場に向かいます。

司祭は花のレイを手渡し、お二人は誓いの証しとしてお互いにレイを交換。両名にタヒチアン・ネームが授けられた後、タパ製の結婚証明書に署名します。

そして、ティファイファイの儀式（大きなキルトに二人と一緒に包まれ、タヒチアンダンサー達が踊りや歌で祝福する儀式）が行われたあと、今度は二人ともカヌーに乗って海へ。なんとロマンティックなものだろう、私には無理だな...。（写真は私ではありません）

今回は、個人の旅行記になってしまいましたが、次回は仕事に関係するタヒチの街をご紹介しますと思います。あと、初めてといえる海外旅行の洗礼を受けました。大変でした...。



忙しい時期、業務関係の皆様にはご迷惑をおかけしました。

ありがとうございました。

